

平成24年度学習内容定着度調査分析（宇都宮市立清原北小学校4年）

【国語】★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
音声言語	「話の内容の聞き取り」に対する正答率は市を下回っている。	日常的に「話す、聞く」活動を取り入れ、話の要点の聞き取り方や内容を聞き取りやすい話し方について、継続して指導する。
説明的文章	「文章や段落の要点に注意して読み取る」ことの正答率は高かったが、「細かい点に注意して読み取る」ことに対する正答率は低かった。	各段落の要点を読み取っていくとともに、段落と段落の関係、段落の役割について考えさせる指導に力を入れる。
文学的文章	「登場人物の様子」の正答率は高かったが、「登場人物の気持ちや気持ちの変化」の読み取りについては正答率が低く、きちんと読み取ることができていない。	文脈に沿って、場面の様子や登場人物の気持ちを読み取っていく指導を続けながら、難解な語句や慣用句などを小まめに取り上げ、豊かな語彙を身に付けさせる。
漢字	3, 4年の漢字については、正答率は高めだが、市の平均を上回っているものは少ない。	新出漢字の習得だけでなく、既習漢字を反復練習することにより、漢字の読みや書きの定着を図る。
言語事項	文の構成についての理解がやや不十分である。	主語と述語、修飾語の指導を、日常の国語の時間に少しずつ行うようにして、児童に定着させる工夫をする。
作文	「学校にあったらいいなと思うもの」を書くことは市の正答率を下回っている。	日記指導などを通して短作文を書く習慣をつけたり、指定した長さで書くことや、段落構成を指定して文章を書く練習をしたりして、文章力を高める。

【算数】★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	2けた÷1けたのわり算や小数のたし算ひき算、分数のたし算については、ほぼ理解できている。3けたと2けたのかけ算わり算の理解が不十分である。	既習事項の復習を行う。理解が不十分な児童には個別に繰り返して指導する。
量と測定	面積の求め方はほぼ理解できているが、分度器を用いて角度をはかることは十分とは言えない。	角の大きさについて復習するとともに、作図を通して理解を深めさせる。
図形	球の半径を利用した問題は市の正答率を上回った。円の半径についての理解や、二等辺三角形の作図については不十分である。	図形の性質や、作図について既習事項の復習を十分に行う。
数量関係	「折れ線グラフ」や「整理のしかた」の二次元表の読み取りはほぼ定着しているが、それらを利用して考えることは不十分である。	既習事項の復習を行う。理解が不十分な児童には同様の問題を使用した反復練習を行い、折れ線グラフのや二次元表の読み方や特徴について理解を促す。

